

個別事業(取組)評価				
事業No.	53	施策の柱への位置付け	柱⑩ 高校教育の推進	
事業名称	21ハイスクールプラン推進事業		担当課	高等学校課
			当初予算額(千円)	38,000
			補正後予算額(千円)	-
			決算額(千円)	31,987

		当初計画	年度末点検・評価
①	現状(課題)とその要因	【現状】 ◆ 各県立高校では、生徒一人ひとりの個性や学校・地域の特性を生かした自主的な取組を行っているが、少子化や通学区域の撤廃でその必要性は高まっている。	ア 正確に把握していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) ◆ 入学者選抜状況の調査を実施し、志願状況等を把握している。 ◆ 学校訪問を行い、各高校の状況について調査している。
		【要因】 ◆ 中学生や地域への教育活動の情報発信や地域との交流が十分ではない。 ◆ 高校生のスキルアップ等の中学生や保護者に分かりやすい取組が十分ではない。	イ 十分に特定していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) ◆ 昨年度まで学校の外部評価や開かれた学校づくり推進委員会など外部からの評価を得ている。 ◆ 学校や就職対策協議会との連携を密にした。
②	目標(Outcome)	◆ 各高等学校の特色を生かした取組を支援し、生徒の学習活動の活性化やスキルアップのために、次の三つの目標を設定する。 ① 各高等学校の学校評価の項目における評価Cの割合を減少させる。(平成21年度:12.1%→10%未満にする。) ② 各高等学校の学校関係者評価における評価Aの割合を向上させる。(評価Aの割合を20%以上にする。) ③ 生徒の資格の取得率を向上させる。(取得率を60%以上にする。平成21年度は58.7%) ④ 特に地域性の高い室戸、嶺北、橿原、四万十、清水の各高等学校の地元の市町村又は連携中学校からの進学率を向上させる。(5校の平均値について平成21年度の50.8%を超える。)	ウ 達成可能で具体的な目標を設定していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) ◆ 各高校の特色づくりの推進を図り、情報発信や地域との交流をすることで生徒や保護者、地域の人の満足を高めることができる。 ◆ 資格取得により、生徒の就職への意識を向上させることで学校の特色化を図ることができる。
		【検証(比較)方法】 ◆ 学校評価 ◆ 学校関係者評価 ◆ 資格の取得率	エ 目標は達成されたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) ◆ 学校評価及び学校関係者評価を各項目をABCの3段階で評価をした。 ① 学校評価の項目における評定の割合は、評価A:21.7%、評価B:70.7%、評価C:7.5%であった。評価Cの割合を10%未満にすることは達成できた。 ② 学校関係者評価における評定の割合は、評価A:25.4%、評価B:67.1%、評価C:3.6%であった。評価Aの割合を20%以上にすることは達成できた。 ③ 生徒の資格の取得率は67.3%であり、昨年度の58.7%より8.6ポイント高くなった。 ④ 特に地域性の高い高等学校5校の地元の市町村又は連携中学校からの進学率の平均値は、52.2%であり、昨年度を超えることができた。
③	実施内容(Input・Output)	◆ ものづくり、資格取得の推進 ◆ 地域でのボランティア活動の実施 ◆ 伝統文化の伝承活動の実施 ◆ 海外交流事業の実施 ◆ 実習販売市の開催 ◆ 学校広報誌の発行 等	オ 計画通り実施されたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) 各学校で年間の行事予定に従って概ね実施することができた。 ◆ ものづくり、資格取得の推進 室戸、城山、安芸桜ヶ丘、高知工業、高知農業、高知海洋、須崎工業、宿毛工業、橿原などで実施 ◆ 地域でのボランティア活動の実施 安芸、室戸、宿毛、高知東などで実施 ◆ 伝統文化の伝承活動の実施 春野、追手前吾北分校、橿原などで実施 ◆ 海外交流事業の実施 室戸、山田、高知西、高知南、伊野商業、清水などで実施 ◆ 実習販売市の開催 高知農業、春野、幡多農業、高知海洋などで実施 ◆ 学校広報誌の発行 等 高岡、窪川、宿毛、橿原、伊野商業、高知東、高知北などで実施

総合評価と今後の方向	目標達成度 B 「No」を選択した項目 <input type="checkbox"/>	【今後の方向】 ◆ この事業は学校独自の教育活動を支援するものであり、学校教育を推進していくうえで必須の事業であるため、より特色を発揮する内容の充実が図られるよう見直していく必要がある。 ◆ 平成25年度からの振興再編計画に向けて、各学校の教育活動を更に充実させ、特色づくりを図る。 ◆ 学校評価及び学校関係者評価は、両者の評価にずれがほとんどないことから今後の学校の取組の改善に積極的に活用していく。 ◆ 学校の特色化を図るうえで、地域性の高い高等学校に限らず、すべての高等学校で地元の中学生や保護者、周辺住民の方から信頼され、地元からの進学率を高めることは必要である。
	【総合評価】 ◆ 口蹄疫の関係で一部自粛した企画もあったが、各学校ともに計画通り実施され、地域との連携やキャリア教育、国際理解教育などの充実につながり、学校の特色づくりを推進することができた。 ◆ 資格取得率は67.3%であり、昨年度の58.7%より8.6ポイント高くなり、少しずつ成果は上がってきている。 ◆ 特に地域性の高い高等学校では地元からの進学率の平均値は向上したが、定員充足率で見れば、まだ空き定員が多い状況である。	